



## 高齢化で新ビジネス

高齢化の進展による紙おむつ市場の異変を商機にして、取り組みが始まっている。新興企業は、病院や介護施設で毎日大量に出る使用済みおむつを固形燃料に変身させて再利用。一方、日用品大手は大人向け需要の拡大に対応し、工場の増設や品ぞろえを拡充している。

### 病院、介護施設で再利用

施設などで出る使用済みおむつの大半は、業者が焼却処分する。スーパー・フェイズが開発した「紙おむつ処理装置」で、使用済みおむつから変身した固形燃料を販売している。そこに目を付けて再生燃料にする。東京都町田市の病院がこの装置を敷地内に設置。冬場の燃料代がかかる上で、丸一日かけて再生燃料にする。

スーパー・フェイズは、性能を向上させた新製品を相次いで投入。肌触りなどを改善したり、簡単に交換できるようにするなど工夫した。大王製紙は米プロクター・アン・ド・ギャンブル(P&G)から発生する1日当たり約14トンの使用済み紙おむつを処理している。

また福岡県大木町などと共に、一般家庭で発生する使用済み紙おむつを回収する実験を実施。将来的には家庭から排出される紙おむつの処理も手掛けたいと考えた。

「技術、コスト両面で難しい」として、この分野への進出に二の足を踏む大手の紙おむ

さも北海道の自治体などが導入に前向きとい

トータルケア・システム、福岡市は特殊な溶液に浸じバルブやプラスチックなどに分解する手法を確立。

建設資材の固形燃料などに再利用する。福岡県大牟田市に専用処理場を建設。同県や鹿児島県の病院、福祉施設から発生する1日当たり約14トンの使用済み紙おむつを処理している。

つメーカーは、大人向

け事業を強化してい

る。

業界首位のユニ・チ

ヤームは、性能を向上

させた新製品を相次い

て投入。肌触りなどを

改善したり、簡単に交

換できるようにするな

ど工夫した。大王製紙

は米プロクター・アン

ド・ギャンブル(P&

G)から、日本での大

人用紙おむつ事業を販

売。静岡県富士宮市に

新工場を建設し、生産

能力を高めている。

日本衛生材料工業連

合会によると、200

9年の紙おむつの国内

向け生産数は前年比

1.4%増の128億

枚だ。大人用

1300万枚、乳幼児

が6.9%増の50億1

00万枚と初めて50

億枚を突破し、乳幼児

用は1.9%減だっ

た。

# 紙おむつが燃料に



## 大手 大人向け需要拡大に対応

日本衛生材料工業連合会によると、2009年の紙おむつの国内向け生産数は前年比1.4%増の128億枚だ。大人用1300万枚、乳幼児用は1.9%減だった。

「技術、コスト両面で難しい」として、この分野への進出に二の足を踏む大手の紙おむ

北國新聞

平成22年3月25日